

1月のコラム～バラフライエフェクトそして表現の自由

年末にNHKで放映されていた～映像の世紀 バラフライエフェクト「ロックが壊した冷戦の壁」～は、東西冷戦の象徴「ベルリンの壁」を崩壊に導いた、3人のロックシンガーの話を中心に話が展開しました。

劇作家だったハヴェルが若い頃アメリカから持ち帰った1枚のレコード（ヴェルベットアンダーグラウンド）が、チェコの若者の心に火をつけ、ロックバンドが誕生します。しかし、西側のロックを危険視している当局によって逮捕されます。政治的メッセージを込めた歌でもなく、ただロックを歌っているというだけで・・・ただ正直に自己表現しただけで・・・この攻撃を見逃せずに起こした人権運動が、ヴェルベット革命に繋がり、何度も逮捕・投獄されながらもハヴェルは、後年チェコスロバキアの大統領になります。

デビッド・ボウイが西ベルリンで壁越しに歌った歌が、東の若者を動かしベルリンの壁の崩壊へとつながっていきます。ドイツのメルケル首相が退任式で選んだ曲は、彼女の原点となった若い頃に聞いたニナ・ハーゲンの歌でした。

まさにバラフライエフェクト。蝶の羽ばたきという些細な出来事が、時間の経過と共に様々な要因と絡み合って世の中を変えるという大きな変化を生み出します。感動と共にこの番組で私の心に残ったのは、表現の自由の大切さでした。自由に考えること、自由に考えたことを表現できること、権力や風潮や心ない中傷で自らの意思や理念を曲げてはいけないこと、そして、表現することをあきらめる社会にはいけないということです。

昨年「表現の不自由展」に行きました。神戸での開催は、会場は公表されず、身分を明かしたうえで事前に申し込んだ人にだけ、直前に届きました。当日、会場の周りには、街宣車とスピーカーからの怒鳴り声、大勢の警察官・機動隊員で、いったい何事かと驚く物々しさ。駅から護衛の列に守られるように会場に入りました。

展示の中でこんなものまで？と衝撃を受けたものを一つご紹介。「梅雨空に『九条』守れの女性デモ」この句は、埼玉県さいたま市の三橋公民館の俳句サークルで第1位に選ばれました。当たり前のように月報に掲載される予定だったのに、政治的であるという公民館の判断で掲載されませんでした。人はそれぞれに意見や価値観を持っています。それが異なってもどう判断するかは見た上で自分が決めれば良いこと。自分で考えたことをただ伝えることさえ容易でない世の中に日本もなっているのだと実感しました。

先出のチェコの元大統領ハヴェルは、「音楽だけでは世界は変わらない。しかし、人々の魂を呼び覚ますものとして音楽は世界を変えることに大きく貢献できるので」という言葉を残しています。音楽に限らず、絵画も小説も俳句も同じだと思います。もし魂を呼び覚まされたなら私たちは、自らも蝶の羽ばたきになり得るのだということを忘れてはいけないと思います。その影響は、世界を変えるかもしれないし、職場を社会を変える最初の羽ばたきになる力を持っているのですから。